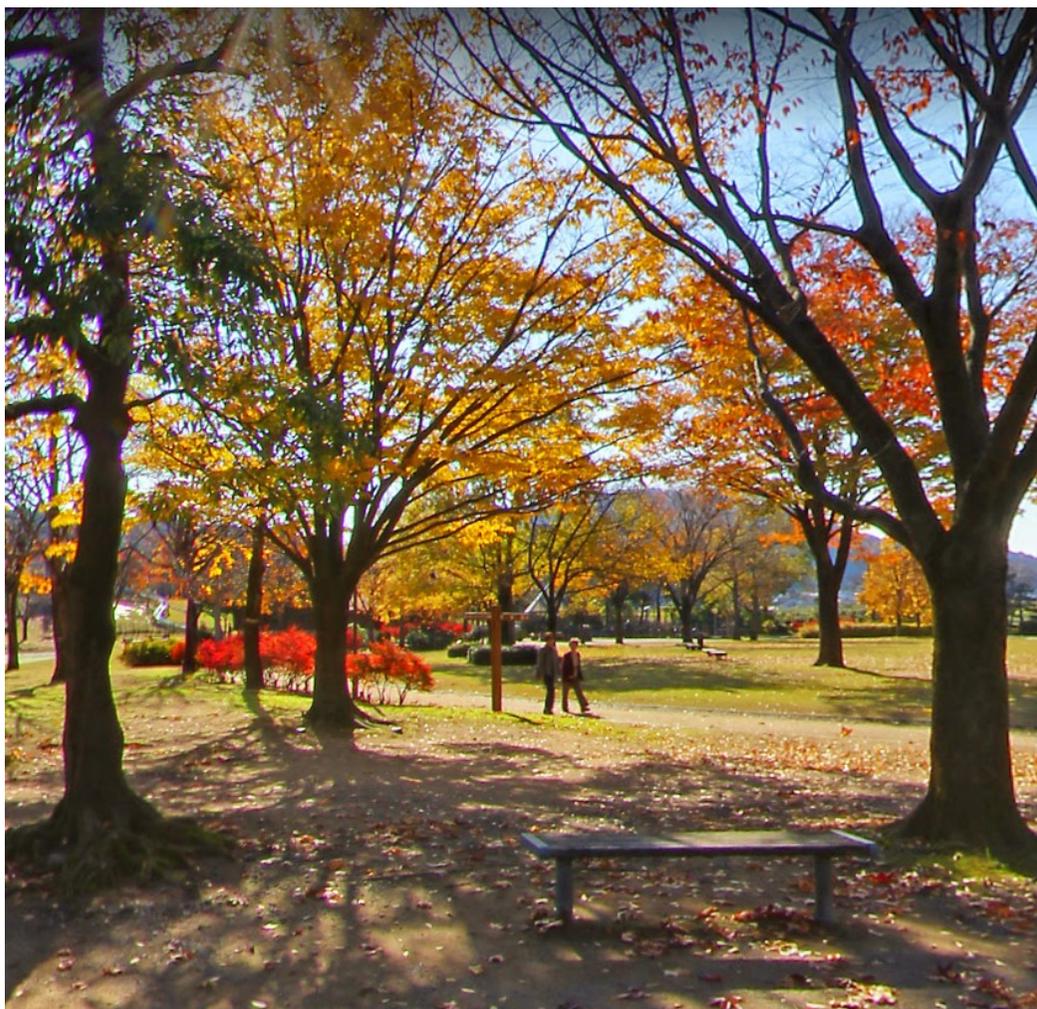


福井いきいき会新聞

3年9か月分の総集編

平成31年1月から令和4年9月まで



福井いきいき会

福井いきいき会新聞

3年9か月分の総集編

一生勉強 一生感動 一生青春を合言葉にして、
高齢者がいきいきとして集う福井いきいき会の活動をつぶさに記録した月刊新聞

24のサークル活動の実施報告

例会、講演会の概要報告

各種教養講座の概要

文化祭や新年会の報告

多様な経歴を持った会員のエッセイ

など

収録 平成31年1月から、令和4年9月までの新聞

発行 福井いきいき会



福井いきいき会新聞総集編の発刊にあたって

福井いきいき会

名誉会長 福井康人

振り返ると福井いきいき会を作ってからあっという間に過ぎ去った10年でしたが、この10年間は、共に歩んでいただいた高齢者仲間の人生総集編でもあったと思います。

本総集編は、福井いきいき会の月々の活動や会員の趣味、エッセイ等の作品を掲載した福井いきいき会新聞の3年9か月分をまとめた冊子です。新聞発刊の前には福井いきいき会の3年3ヶ月の歩みをまとめた記念誌を発行しましたが、本総集編はその後の活動をつぶさに記録してきた続編ともいえるものです。福井いきいき会新聞は月刊誌として毎月発行してこられたので、新聞作成に携われた方々苦労は大変なものだったと推察いたします。ここに、そのご努力に深く感謝申し上げたいと思います。

そして、本総集編が、福井いきいき会の会員はもとより、多くの高齢者がいきいきと老後を暮らしていく際の読み物として、手を取って読んでいただけることを願ってやみません。





福井いきいき会新聞総集編発刊の挨拶

福井いきいき会

会長 小林久子

この度、三谷市民文化 振興財団様のご支援により、「福井いきいき会新聞総集編を」発刊することになりました。創立 10 周年の節目として誠に喜ばしいことと存じます。

事務局長吉岡芳夫氏の編集力、デジタル力により 45 号まで掲載、コロナ禍の中で苦慮されながら継続されたことは敬愛の至りです。様々な分野の投稿、サークル活動の楽しい記事は生きた証として誇らしく、今後の会員の励みにつながると思われま

す。10 年前、70 歳代の熱い志を持った仲間が集まり「福井いきいき会」が立ち上がりました。試行を繰り返し、小さな「生きがい」の輪が大きく膨らんで、現在エコライフプラザ 2 階、3 階を拠点に 24 サークルが活動しています。最初に発起された人々、会を支えてくださった委員の方々の力に応えられますように「福井いきいき会」を大切にしていきましょう。運営委員会、総集編等発刊など実務作業に関わった委員の方々ありがとうございました。今後も「福井いきいき会新聞」の発行を期待しております。

総集編の中、先に逝った方々の懐かしい面影を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。 合掌



福井いきいき会新聞総集編発刊に寄せて

福井いきいき会

顧問 山田文雄

福井いきいき会新聞総集編の発行責任者で、当会副会長の吉岡芳夫さんから、総集編の校正刷りを頂いて、まず索引の項目をめぐってみました。するとどうでしょう。1項目ごとに魅力のあるテーマがズラリと並んでいます。あれもこれも読んでみようと思いながら次々とめぐり、つい時間が経過しました。

毎日発行される新聞も縮刷版があります。しかしニュースが中心で家庭欄や学芸欄があっても無味乾燥な感じは免れません。そういう意味では、この総集編はあまり見られない特徴を持っているなと思いました。

どうしてこのような感じだったのでしょうか。私も当初、福井いきいき会新聞の発行について偏見を持っていました。お年寄りの集まりだから、どうせ老人臭い（失礼）内容になるだろうと。会合の場でも異論が出たようですね。

ところが何と云うべきか。索引を見ただけで読んでみようと思う気になったのは、どうしてでしょうか。これは一口では言えませんが、お年寄りだからこそ、永年築いた年の功の効果が現れたということは言えるでしょう。

しかしどこの集まりでもこのような効果が出るとは限りません。むしろそのような効果は出にくいのが多数でしょう。公民館などでは世話役の老人の集まりは多いようですね。しかし挨拶文やお知らせなどが中心の会報では、積んどくになりがちです。

それが福井いきいき会では、吉岡副会長らの努力で45号の新聞の蓄積があります。これは本会の創設者である名誉会長の福井康人さんら役員のパックアップもあったでしょう。しかし、最近は4ページ以上でカラー写真が常態化する充実ぶりです。発表の場を与えられた会員の投稿も増えています。

毎号出る濱田芳雄相談役の人生訓は敬服すべきものがあり、いちいちお名前は挙げませんが、エッセイの投稿も増えているようです。趣味の面でも川柳同好会は常連であり、郷土の歴史の事なら幅広い分野で話され方が増えています。懐かしい映画も登場します。

しかしなんと言ってもこのような成果を上げているのは、創刊号から一貫した発行責任者として新聞づくりを手掛けられた吉岡副会長の功績は誠に大きいと言えます。

サークル活動の紹介やエッセイにしても、活字や写真で出することは誰でも満足感を持つようです。テレビ局でも最近、芸能人を使ってこの種の番組を作ると、視聴率が上がると言います。

これが身近な人が登場する福井いきいき会新聞で掲載されます。本人はもちろん友人達も興味を持ってくれるし、たとえピンボケ写真でもかえって話題になります。

この辺りが、福井いきいき会新聞が長続きし、総集編で読み返してみようという気になるカギかもしれません。吉岡さん、作成委員会のみなさん、今後もどうかよろしく願います。

福井いきいき会新聞総集編の発刊について

福井いきいき会
新聞作成責任者 吉岡芳夫

福井いきいき会は、高齢者らが、老後をいきいきと暮らしていけるように、みんなが集う場所を提供している会です。会のモットーは、一生勉強一生感動一生青春で、これを合言葉とし諸活動を展開しています。

福井いきいき会は、初代会長福井康人氏の熱意によって10年前に発足しました。わずか19名のメンバーからのスタートでしたが、孤独になりがちな高齢者に居場所を提供するというコンセプトのおかげで、多くの高齢者が集うまさに「いきいき会」になりました。

現在、当会は24のサークル活動を展開しています。会員は、それぞれ自分に合ったサークルに参加され、仲間を作って楽しんでおられます。そして、当会の日頃の活動の様子は、福井いきいき会新聞に掲載されています。新聞を発行しよう決心して当会の運営委員会で提案したときは、高齢者のボランティアだけで毎月発行するなんて、とても無理だという意見が多かったのですが、それでも新聞の発行は、会員には勿論、まだ入会しておられない高齢者の方々にも、当会の活動全体を知っていただく最良の方法だと考えてスタートしました。そして、新聞作成委員会の方々のご尽力のおかげで、コロナでサークル活動を中止せざるを得なかった期間も含めて、現在まで3年9ヶ月の間欠かさず毎月新聞の発行を続けることができました。これからも発行を続けていきますが、このほど一応の節目として3年9か月、第45号までの新聞をまとめた総集編を冊子として発行することにしました。この事業のために、三谷市民文化振興財団から、令和4年度助成金30万円をいただくことができました。

本福井いきいき会新聞総集編には、45号までの全新聞を収録したのは勿論のこと、読み物としても楽しめるように索引を設けることにしました。すなわち、発行号ごとに取り上げた記事やエッセイなどの見出しを目次のように記載したほか、全サークルの活動状況を書いた記事の発行号と掲載ページ（紙面）を載せました。例会での講演については、各講演の概要報告をまとめて載せましたし、各号に掲載されたエッセイについては、投稿者ごとにエッセイのタイトルと掲載号および紙面を書いています。サークル活動では、歴史を楽しむ会、易しい科学の話、インターネット世界旅行、経済指標を考える会、毎回講師の方々の方が資料を作って講演をしておられます。その題目と掲載号と紙面も索引に載せました。映画観賞会に関しては、上映した映画のタイトルを載せました。

このような索引を見れば、興味のある一面の記事、サークル活動、エッセイなどを、すぐに見つけることができますので、読み物としてお楽しみください。また、当新聞の総集編を皆さんのお知り合いの方々にもご紹介いただければ幸いです。

最後に、当福井いきいき会新聞は、パーソナル編集長というソフトを使って作成し、エプソンのプリンターで印刷をしてきました。毎月の発行部数は、130部ほどになっています。また、当新聞の作成に当たっては、経験者の多大なるご指導とご支援がありました。また、エッセイや講演の概要を書いていただいた方、新聞の校正や印刷をしていただいた新聞作成委員会の方々にも厚く御礼を申し上げます。
